

第7回 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会 議事録

■日 時 2017年3月30日(木) 14:00～16:00

■場 所 札幌市役所本庁舎6階 1号会議室

■参加者 委員：小澤 丈夫／北海道大学大学院工学研究院教授
平井 卓郎／北海道大学名誉教授
池ノ上 真一／北海道教育大学函館校国際地域学科准教授
川上 佳津仁／札幌市市民文化局文化部長
オブザーバー：渡辺 一幸／北電総合設計株式会社
川上 雅彦／北電総合設計株式会社
木本 浩司／北電総合設計株式会社
金盛 貴浩／株式会社ディージェーワールド
石郷岡 哲也／株式会社ディージェーワールド
小林 航／札幌市局建築部建築工事課
吉野 聖／札幌市中央区土木部維持管理課
事務局：榎引文化財課長、青木文化財係長、田村
株式会社K I T A B A：神長、窪田
傍 聴：3名

1. 開会

(榎引課長)

- ・本日は角委員が所用ということでご欠席の連絡を頂いている。
- ・本委員会は今回で最終回となり、是非とも忌憚のないご議論をして頂きたい。
- ・これより先、文化財係長の青木より進行させて頂く。

(青木係長)

- ・はじめに本日の配布資料の確認をさせて頂く。クリップ止めになっている、1枚目が次第、めくって頂き資料-1 議員名簿、資料-2 座席表、資料-3 展示及びガイドサイン検討案、続いて資料-4 管理運営の詳細について、資料-5 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮の活用を考える会 開催結果。この後ろは参考資料になるが、参考資料-1 が旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮アドバイザー会議設置要綱、参考資料-2 永山記念公園再整備工事一般平面図、最後に参考資料-3 点事件等補足資料になる。
- ・ここからの議事進行については、小澤委員長にお願いする。

2. 展示及び内部サインについて(資料-3)

(小澤委員長)

- ・次第に従い進めていきたい。まず次第2の展示及び内部サインについて、これは本日のメインの議題になる。資料の説明をお願いします。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・表紙をめくって頂くと目次、スケジュールをつけさせて頂いている。また、前回までにご検討させて頂いたレイアウト図と概要ということで、こういった領域にこういったものを展示するのかという資料をつけさせて頂いている。
- ・本日は、4ページ目から検討して頂きたい。
- ・今まで色々ご意見を頂きながら、大体こういった場所にこういったものをこういった中身のもので展示するというところを検討させて頂き、本日は具体的なイメージを作ってもらいましたので、こういったイメージで展示していくという方向性を出させて頂ければと思う。

- ・ 1階のエントランス部分に関しては、タッチ型のサイネージ。同じものを2階にも置くが、こういった形のタッチ型のサイネージを検討している。上には日時や天気予報を流しながら、その下にはループさせるような映像を流して、ウェルカムボードとして使って頂き、施設の内外観、公園の画像といったようなものや館内の地図情報をループ再生させるイメージで考えている。下の方にはウェルカムという文字と、右から左に流れるテロップでその時期時期でのインフォメーションを流す。
- ・ その下、下段にいき、青四角、赤四角と並べているが、旧永山武四郎邸の歴史や旧三菱鉱業寮の歴史的なものの情報をこちらでタッチしてご確認頂ける。あとは館内のマップ、今回新たに設置されるカフェスペースのご案内といったものが情報として表示される予定。
- ・ そのあと、C欄に行き、トップページに戻るボタンと札幌市からのお知らせというボタンをつけて、市役所からのお知らせと市民の声ということで、市民から寄せられた情報。あとは、貸室の利用規約や料金の情報といったものを貸室情報としてのせる予定。
- ・ 言語に関しては、多言語対応ということで、今までどういった言語を表示させるかということで、優しい英語というご検討をされていた。最終的に何言語どうするということはまだ本日決めきれはしないと思うが、最低限日本語・英語、可能であればプラスαの言語対応といったところをこの中で検討させて頂ければと思っている。
- ・ 続いて、エントランスを入り展示室の方は、②のところには旧三菱鉱業寮、入る前のところの概要をパネル展示させて頂く。
- ・ ③、入ってすぐの壁面に関して炭鉱の歴史などをパネル展示するイメージで想定している。
- ・ ④、左の奥に関しては、苗穂地区、北3条界隈の役割であったり、歴史といったものを模型プラス小型のサイネージ。絵で言うと、左下の子どもが触ろうしているようなタッチ式のサイネージがあるが、こういった小さめのサイネージを置き、旧三菱鉱業寮の概要やレプリカの説明などをこの中で表示する予定。
- ・ ⑤、一番右奥に関しては、大きめのディスプレイ、プラス衣装ケースを置き、書物などの展示物プラスそれぞれの映像で説明といった展示を考えている。こちらの方は、できれば衣装ケースとディスプレイが一体となったようなケースを構築して、壁になるべく重たいディスプレイを掛けない工夫をしたケース一体型のもので検討したいと考えている。
- ・ 四角で囲まれたところの下段の、旧永山武四郎邸に関しては、簡単な永山武四郎邸の概要や、肖像画などを和室部分に置く形で考えている。
- ・ 下段右側に関しては、廊下の壁面で年表やかつての札幌市がどのように発展してきたかを映像ループで表示することを想定している。1階の展示に関しては以上となる。
- ・ 2階ホールは、形としては1階のエントランスと同じようなイメージのサイネージを置き、流す映像に関しては、貸室、実際の展示、体験室などの利用情報を交えながら、1階と同じような形でのサイネージを検討している。
- ・ ⑧に関しては、入って、階段上がって真正面のところプラス左側の部分だが、ここには雰囲気や壊さない程度の資料を壁面に展示することを想定している。
- ・ 2階のホール、現状だと空白のスペースがあるが、どういった家具を置くかも本日の検討課題の一つとさせて頂きたい。
- ・ 続いて、右側のインフォメーションスペースだが、くつろぎながら書籍や、⑨のタブレット型サイネージ、iPadのようなものを想定している。こういったものでくつろぎながら旧三菱鉱業寮の歴史を学んで頂くとか、貸室の利用情報を見て頂くスペースを想定している。こちらもどのような系統の家具を置くかというところを本日ご検討頂きたい。畳の和室に合うような調度品や文化財関係の書籍、あとは子どもも少し楽しめるような漫画的なものや絵本的なものを少し置くことを検討している。あとは、思い出を書き残すことができるフリーノートや持ち込んだ写真を貼り出せるようなスペース、貸室を利用した方々の風景といったものをこの中で展示できればと思っている。
- ・ 貸室の方は、要検討と小さく書いているが、貸室にもあらかじめディスプレイだけ置いて、会議や打ち合せの場で活用できるような移動式のを準備してどうかと思っている。右上に、貸室貸出用と囲われているところに記載している。
- ・ 部屋のイメージや展示する張り出しボードのイメージなどを中段に記載している。

- ・タブレット型サイネージに関しては、現状3台考えているが、この情報をそれぞれの来館者が持っている自分のスマートフォンなどでも見られるシステムの構築を考えている。これらを展示させるためのデータベース構築の概要を説明する。
- ・展示資料の提供元として、来館者の方々や研究者の方々、シェアする方々も出入りすると思うが、様々な展示素材を簡単にアップロードできるような、スキャナーやパソコン、タブレット、カメラなどから、クラウドサーバー上にアップして頂く。そして、真ん中の施設の指定管理者はその素材を選定・確認して、一部必要な編集作業を行い、施設側に展示していく。簡単に自由にできるような構成を考えている。
- ・現時点では大きく3つのデータベースを作ろうと思っている。施設情報に関するデータベース。利用規約や施設の利用方法、カフェスペースのご案内、館内マップ、ボランティア募集、市民データベースのご案内、有料撮影情報、貸室情報といった施設の情報を載せたり、集められるようなデータベース。もうひとつは、歴史建築に関するデータベースで、永山武四郎さんであるとか、三菱鉱業さん、札幌市の取組、北海道の開拓、苗穂地区の役割、産業の発展などの情報といったことで、大きく分類している。一番右側が市民のデータベースで、市民が撮影した写真や貸室の利用風景、公園の風景、来館者、寄贈品などを蓄積できるデータベースを考えている。あくまで、こちらも例になるが、こういったところをどう作り増やしていくかについては、基本的な管理に関しては、札幌市が大きく分類を管理して、運用に関しては指定管理者がしていくことを想定している。
- ・9ページは今までご説明させて頂いた機材を一覧にまとめたもので、それぞれの重量と消費電力を記載している。こちらは、先日建築担当の方々ともお話させて頂き、重量的に、消費電力的には問題ないというお話を頂いている。
- ・続いて、今までご説明させて頂いた配置情報などを地図上に①～⑩までプロットさせて頂いている。プラス、館内のサイン関係をこういったイメージで配置していくといった色付きの丸をつけさせて頂いている。
- ・1階に入ると館名サイン、そのあと階段の前に誘導サイン、あとはトイレ表示、室名表示、スタッフオンリーなどといったプライベートマーク。壁掛け以外にスタンド式のもので、縦型のサインもいくつか設置した方がいいということで、例を挙げている。
- ・次ページ以降、デジタル機材の仕様をのせている。こちらは、実際6月以降の詳細設計に入るタイミングで、こういったものを設置することをイメージして詳細設計に入って頂く。
- ・資料の説明は以上になるが、資料の中で参考資料-3という形で一番最後につけている資料が、特に今回方向性を出して頂きたいところの補足資料になる。
- ・1つ目は什器の検討ということで、コンセプト・数量・什器イメージの方向性の確認で、前提条件として建物・空間を体験できる場づくりが求められているという中で、固定家具をどういったイメージにしていくか。持ち運べるような家具にするのか、どっしりとした重たいものにするのか。あとは、密度感をどうするのかというところで、ゆったりとしたものにするのか、数量的に多くの方が座れるようなものにするのか。テイストは、レトロなテイストにするのか、和モダンにするのかといった方向性を出して頂き、来年度以降の具体的な詳細設計の方に活かしていきたい。
- ・展示として什器の方向性を検討する場所ということで、2階ホール部分（ロビー／ホワイエ）をどのようにするか。
- ・旧物品室改修部分（丸窓部分）だが、今までの議論の中でも何もしない方がいいとか、壁に何かパネルを掛けた方がいいのではないかと検討がされてきたが、まずはスタート時点でどういうイメージでスタートするかというところを、この場でご意見を頂ければと思っている。
- ・③として、2階インフォメーションスペースの部分。家具として、座椅子のようなものを置くのか、少し背丈のある、座れるようなものにしていくのかというところ。
- ・④として、貸室の特に縁側部分だが、この趣のある部分に家具を置くのか、置かずに空間として見せた方がいいのかというところをご意見頂ければと思っている。

(小澤委員長)

- ・資料-3の展示及びサイン計画検討資料ということで、これを今年度まとめてしまおうということ。工程表にあるように、6月末から7月にかけて展示設計に入っていくので、その設計をして頂く業者を決める入札にもこれが使われると聞いている。今年度最後の委員会なので、この展示資料について固めるというのが今日の目的。55分ほど時間を用意しているので、検討を加えていきたいと思う。非常に盛り沢山の内容になる。ご説明頂いたように、資料・概要を見ると、資料-3の2ページ目、3ページ目が展示・サインの検討の全体概要となっている。ここにキープラン的に1階、2階の平面図も2階に出ていくということで、まずこの概要の確認をしたい。
- ・4ページ、5ページが1階の展示イメージ。サイネージを含む展示イメージが出ている。これに対する議論。6ページ、7ページが2階ホールとインフォメーションスペースになる。8ページ、9ページにいくとデータベースの話。全体をどう運営していくかというソフト的な話になっていく。10ページ、各種サインというところに、具体的にどういうサインをどこに配置するかというイメージ。それ以降は機器になる。補足資料として、こういったところを議論してほしいというものが出ている。
- ・どういう順番で話をしても構わないが、順番として資料3の2ページの概要あたりからはじめさせて頂き、必要に応じて他の階の項目、あるいはソフトのところにも飛んでも構わないので、2ページ、3ページの全体の考え方に対するご意見等から頂けたらと思う。今まで何回か話はしてきたので、確認でも構わない。
- ・最初私の方から1点、これまでも何回か議論されていて、こういったものを考える上で大きな前提となる、前回も話に出ていた冬と夏の入口の考え方を整理した上で議論に入っていきたいと思う。その辺、今の札幌市さんのお考えを聞かせて頂けるか。

(事務局)

- ・現状を説明させて頂くと、夏場は三菱鉱業寮から出入りして頂く。冬場は、屋根から落雪の危険性があり、三菱鉱業寮の方は出入口を閉鎖し、旧永山武四郎邸の方から出入りして頂くという状況になっている。
- ・今回、この展示の検討を進めるにあたっては、この現状を前提として考えていた。ディージェーワールドさんからご説明頂いた入口入ってすぐの案内のタッチ型サイネージは、キャスト付きで動かせる仕様を想定しているので、入口が変わる際には、それを移動することで対応すると考えていた。

(小澤委員長)

- ・バリアフリーの入口は、駐車場側からなるという話でしたね。

(事務局)

- ・工事後は東側に新たにバリアフリーのスロープを設けて車いすの方が入れる入口を作る。そちらについては、常時出入りできる状況にしておきたいと考えている。
- ・課題としては、東側の方も屋根からの落雪の危険性があることが想定されるので、そのあたりについてどのように対応するのかを今後検討する必要があると思っている。場合によっては、冬期閉鎖をしなければならないという可能性も出てきてしまうと考えている。

(小澤委員長)

- ・バリアフリー入口から入ってくる方に対しては、特別にサイネージを設置する予定はあるのか。結構コストもかかるので、その辺はサイン的なものでご案内をして、まず玄関の方へ行って頂くということか。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・10ページ目でいうと、1階の車いす用出入口というのが東側の方に、ちょうど真ん中くらいにあるが、そこには階段の方に誘導サインをつけさせて頂いている。ここをもう少し車いすの方が入ってこられるすぐのところにも置かせて頂き誘導していく。展示室はこちら、ここは旧三菱鉱業寮というようなご案内が必要になると思っている。

(小澤委員長)

- ・特に人による案内がなくても、自力あるいは付き添いの方が入ってきて、サインを見て頂くという考え方を今確認させて頂いた。
- ・2ページ、3ページにこだわらず、1階あたりから入って行って構わないが、何かお気づきの点などないか。

(池ノ上委員)

- ・ おそらく、もう委員会では議論する必要はないかなと思っているが、表現の仕方について。2ページ一番左側の図だが、下の赤字でインフォメーション、エデュケーションという形で3つの柱を表現する形になっているが、インフォメーションはいいと思うけれども、エデュケーションだけではないのかなと思う。
- ・ 今後、次年度に向けてこれを使っていくのであれば、第三者が見たときに誤解を与えない表現の仕方。エデュケーションもいいのかもしれないので、それ以外も含めて何か表現の仕方がないかと思う。

(小澤委員長)

- ・ エデュケーションという言葉はどこから取ってきた言葉か。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・ 5回以前の検討資料の中で、いくつかそう表現がされていたので、ある程度教育的な場という表現を私たちが継承させて頂いた。

(池ノ上委員)

- ・ まちづくりとか創造性みたいなところをどう表現するのかというところがあった方がいいのでは。

(平井委員)

- ・ エデュケーションは様々なものを含むが、誤解をまねくかもしれない。
- ・ 意図するところは相互に知識を高め合うということだと思うので、よく使っている言葉だとピアエデュケーション (peer education) が当てはまるだろう。誰か先生がいるというわけではなくて、お互いに教え合いながらみんなで知識を増やしていくということ。でも、この言葉はあまり一般的ではないので、そういう意味ですと説明をすればいいのかもしれない。
- ・ 確かにエデュケーションという言葉だけ聞くと、何となく誰か先生がいて他のみんなに教えますという印象がある。

(小澤委員長)

- ・ 自発性とかそういうのが大事になると思うが、パツといい言葉は今出てこない。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・ 特に今後詳細設計に入っていく中で、誤解を与えないような表現の仕方を札幌市さんと含めて、自発性、創造性、相互性といった表現を何か入れられるように工夫して。

(小澤委員長)

- ・ 無理にここの部分に短い言葉1つでなくてもいいかもしれない。何か言葉を連ねて説明してもいいかもしれない。

(平井委員)

- ・ 先ほどの3番のところ、動線が十分固まっていないところが気になっている。まだ流動的なところがあるとすると、サインで可変式のをどのくらい取り入れられるかということだが、かなりそうなっているようなので、多少考え方が変わっても固定ではないからどうにかかりますよね。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・ そうですね。極力、今回壁や天上に括りつけて他に動かせないサインや展示は考えていない。
- ・ オープンしたあとでも、少し邪魔になる場合でも多少動かしていける利点を想定している。
- ・ 廊下の一部だけ補強が必要と思っている壁が、⑥の部分になるが、こちらは7月くらいまでに具体的な場所を工事の方と相談して壁補強をして頂き、ディスプレイを掛けることになるかと思う。

(小澤委員長)

- ・ 何かそういう条件のようなものがついているのであれば、文章でうたっておくと良いと思う。
- ・ 文化財であるということで、できるだけオリジナルの建物を傷付けない配慮と、冬の動線等まだ課題を残しているところがあるので、その辺のサインの可変性というものを考える必要があるということを書いて頂くだけでもいい気がする。ある意味、覚書のような意味合いもある。

(平井委員)

- ・壁補強というのは、単純に展示用機器の重量を支えるためにということですよね。それであれば、構造設計上の荷重の見直しが必要になるようなものではないと考えて良い。

(小澤委員長)

- ・確認だが、5 ページの旧永山武四郎邸の左下の部分だが、パネルのイメージがあり、和室ということだったが、今回のこの事業範囲では永山邸については、サイネージは移動して行くにしても、基本的にはこの和室のパネル展示のみという考え方ということか。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・今回、展示・サインの検討に関して、あくまで今回改築・改装する三菱鉱業寮側ということだったが、この中で永山邸をはっきりと永山邸である、こちらからは三菱鉱業寮であるという中で、永山武四郎さんに関わるものは極力永山邸の方に集めさせて頂ければというところで、一部のものについては永山邸に置かせて頂きたいと思っている。
- ・建物そのものを見て頂くということだが、基本的には展示に関しては行わないと考えている。

(小澤委員長)

- ・全体と1階に関していかがか。

(川上委員)

- ・今の永山邸の関係だが、5 ページの下に書いている永山武四郎の業績、歴史、時代背景のようなことを、パネル、壁面を使って展示すると書いてある。
- ・永山武四郎邸の建物のいろいろな様式とか意匠とか、ディテールの部分についてはどこで紹介する形になるのか。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・今は、1階展示室4番のところに永山武四郎邸の模型と、それを映像で少しご紹介するもの、あとは小型のタッチ式サイネージでもご紹介できるもの、エントランスと2階の大きなタッチ式サイネージのところでも永山武四郎邸に関わる歴史的建造物のご紹介をする予定。
- ・なるべく、パネルにしてここが永山武四郎邸かというふうに誤解をされにくいような形で、映像やデジタルデータを使いながら、来館者の方々にご案内できればと思っている。
- ・模型に関しては、今三菱鉱業寮の方を1つ作る想定を立てているけれども、その中で2つの建物があり、こっちが三菱鉱業寮です、こちらが永山武四郎邸ですといったご案内ができれば、より来られたお客様に対して理解して頂けると考えている。

(川上委員)

- ・7 ページの⑨、⑩で、子どもも楽しめる絵本や書籍、漫画とあるが、これは旧永山武四郎邸、旧三菱鉱業寮に関連する歴史などの分野のものということでもいいか。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・具体的にまだこの書籍というのは決めていないが、基本的にはそういった時代背景に合うような歴史物を想定している。

(川上委員)

- ・あと、同じページで、貸出用で要検討と書いているディスプレイだが、私は非常にいいと思っている。これからいろいろな目的で2階の和室を使って頂くためには、そういうサービスがあれば、いろいろな講演会とか打合せでも使える。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・プロジェクターというのも1つ検討にはあった。
- ・実は、プロジェクターよりもこういったものが楽かなと思っている。
- ・焦点を合わせる、並行をとる、台形補正するとか私自身使っていても、ハマるときとそうでないときがあるので、意外にこういったものが日の光の方向を見ながら、直接当たらないような方向に向けながら利用できる利点がある。

(小澤委員長)

- ・川上委員の話題をきっかけに2階にも話移ったが、2階で特にまだ十分議論されていない点として家具・調度品の考え方がある。
- ・特に、階段登ったところにある古いソファ。出所がはっきりしないということで、何か古い雰囲気は醸し出しているが、果たして残しておくほどのものかどうか確認できないということ。

- ・ 実際座ってみると、座面が抜けたような形になっていて、快適に座れないということで、あまり積極的にご活用頂くようなものではないのではないか。
- ・ 例えば、あの家具を入れ替えて、もう少し違う家具にして、ここを積極的に活用して頂くのがいいのか。
- ・ あるいは、家具を置かずに何か別の使い方をするというのがあるのか。
- ・ それから、和室、インフォメーションスペースあたりもこういった低い座卓のようなものなどをご提案頂いているが、こういった家具はどういったデザインのものをどんなふうに入れていくのがいいのかというのも、そろそろ方向性について議論していかなくてはいけないと思う。このあたりについて何かご意見頂ければと思う。

(池ノ上委員)

- ・ 1つは、この従来の家具は明らかに後から持ち込まれたものであるのかどうかというところが解らないのであれば、一度専門調査を入れて欲しい。意外と古いもので、何か由来があるものかどうかというところがあるかなと思った。
- ・ あとは、ここの空間の使い方をどうするかということなので、悩むところではある。どちらもありかなと思っている。ゆったり過ごせるのも魅力的かなと思うし、逆に言うと、少しでも多くの人にここに滞在してもらおうという仕掛けで、窓際にカウンター式でお一人様向けのようスペースを作るのもありかなとも思う。

(小澤委員長)

- ・ この2階の貸室は飲食ができると考えていいのか。

(事務局)

- ・ そこについては、これからの議論だと思う。
- ・ ただ、貸室としてご利用頂く際には、飲食を行える方がいいのではないかと考えている。

(小澤委員長)

- ・ 例えば、貸室のところで飲食が可能であれば、ホールに突き出すスペースもかなりいい雰囲気なので、何かいい椅子とテーブルがあれば休憩時間にコーヒーを飲むなど、非常に喜んで頂けるのではと思う。
- ・ 特に、そういった使い方に差し支えはないか。

(事務局)

- ・ どういうふうに判断・解釈するかによる。
- ・ これまでも、議論の中ではカフェ・レストランからテイクアウトしたコーヒーなどの飲み物をここでくつろぎながら飲んで頂くという利用の仕方もあるのではないというご意見も頂いていたので、厳密にどこまでを許容するかというのは検討しなければならないにしても、想定はしている。

(小澤委員長)

- ・ 個人的な感想としては、2階のインフォメーションスペースとか、1階展示室等もあるので、そこでかなりいろいろな展示はできるし、サイネージもあるので、この突き出しスペースはくつろいで頂けるスペースとして使うのが有効ではないかという気がしている。
- ・ そうすると、先ほど池ノ上委員がおっしゃったような、この家具の出所は気になるころではあるので、そこをもう少し調べたいと思いつつも、差し支えなければ別の家具を置いてくつろぐというふうにしてもいいかなと、特にユーザー目線からいくと思う。

(平井委員)

- ・ 建物の内装と家具との組み合わせ方の知識が全くないが、大体内装の様式に合わせたものを入れるというのが一般的な考え方なのか。それとも、全然違う完全に今風のものでもいいという考え方もあるのか。

(小澤委員長)

- ・ 考え方はいろいろあると思う。

(株式会社ディー・ジェー・ワールド)

- ・ アクセントとして少し新しめのものを入れるという考え方もあるし、完全に馴染ませてしまうという考え方と両方ある。

(平井委員)

- ・ 予算もあることなので、何でも買えるわけではないと思うが、もしここにはこういうものを入れるという縛りがないのであれば、札幌市所管の建物であるということで、元々札幌市内の永山武四郎邸とか三菱鉱業寮あたりに自生していた種類の木を使った家具はどうか。その辺りに普通にあったハルニレとか、札幌のまちが発展する前に覆っていた森の代表的な樹種2~3種類を使った歴史や地域性を表す家具をここに置くというのも悪くないのでは。

(池ノ上委員)

- ・ 特に2階ホールの突き出しスペースは、ちょっと質のいい滞在のスペースとして演出できると思う。
- ・ 貸室はどうしても使い方によっていろいろ出てくるので、ある程度フレキシブルに使えるような形の方が良い。
- ・ それでも、考え方だが、私としては今回かなりデジタルやITを使って、データのオープン化とか、そこで市民とか利用者いろいろな人たちにクリエイティブな活動をしてもらおうということが今回の館の趣旨なのかなと思っている。
- ・ 逆に、この空間の演出としてはアナログというか、質感を大切にしたいような作り方にすると良いのではないかなと思っている。
- ・ 先ほどの平井先生の札幌の東地区の何かストーリーを上手く活かしたような使い方にするとか、歴史的根拠によるストーリーにするなど、できるだけアナログというか、ストーリー性のある作り方ができるといい。

(小澤委員長)

- ・ 確かにこういった古い歴史的建造物の中に家具を入れるというときに、いろいろな考え方がある。
- ・ 何を価値判断に置くかということで違ってくるし、いろいろな輸入家具のメーカーさんに提案をお願いすると雰囲気の良いものはいくらでも提案して頂ける。
- ・ ただ、それでは雰囲気がいいというだけになる。
- ・ 何か、今、池ノ上委員がおっしゃったように、ここは何か大事なテーマを持つ場所だとすると、何かテーマを見つけて、そこに合うものを入れていくということが大事かもしれない。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・ 今までの委員会の中でも、オープン後に寄贈品のようなものを集めるとか、寄付金のようなものを集めて家具や備品を入れようかという話も出ていたし、最初からどなたかに設計を依頼して入れるという両方の意見が出ていた。
- ・ 最終的に、スタートをどうするかというところを我々も悩んでいる。

(小澤委員長)

- ・ 家具を作るということだと、札幌にも家具を作っている方はいる。地域の木材をテーマにするというのものもある。
- ・ もっと話を広げると、旧永山武四郎邸ということで、第7師団の話に繋がっていく。それとの関係で、旭川に行くとか家具に関連して動きがあるので、札幌に留まらずオール北海道的なニュアンスを入れていって、何かメッセージを発信するということもあるかもしれない。

(池ノ上委員)

- ・ そうですね。旭川と何か連携するものがあれば。

(小澤委員長)

- ・ また新しいネットワークの形になるかもしれない。

(平井委員)

- ・ そういうところとコラボしていくのも一つの案。

(小澤委員長)

- ・ 何かそういうテーマ性を持たせることを検討して、くつろぐための、ユーザーのための家具を入れる。

(平井委員)

- ・ もしかしたら、古い家に代々伝わっている家具を持っていて、処分に困っているという人が札幌市内に出てくるかもしれない。

(小澤委員長)

- ・ この検討資料としては、そういう幅を持った書き方でも大丈夫か。

(事務局)

- ・ 検討委員会でいまおっしゃられたようなコンセプトで進めていこうというのをお示し頂いたということで、今後、それを踏まえて、やり取りしていくことはできると思う。

(株式会社ディー・ジェー・ワールド)

- ・ オープン前の、アドバイザー会議の中でご相談させて頂くこともある。

(平井委員)

- ・ 最後詰まってくると、いついつまでに家具を選ばなければならないとなって、家具屋さんに予算はこれだからということで丸投げすることは辞めたい。

(事務局)

- ・ どうしても予算の制約が最後には出てきてしまうのが、いまのコンセプトを崩さないように調整しながら発注できる形を取っていききたい。

(平井委員)

- ・ 予算に制約が当然あるだろうから、このくらいの家具がほしいと 100%全部最初から入れておかないというの手。
- ・ 予算の範囲の中で、6割~7割くらい入れておいて、あとでこういうのを置きたいとなったときに、置くスペースを残しておくのも良いかもしれない。

(小澤委員長)

- ・ このホールとインフォメーションスペースの2カ所で家具が話題になっているが、例えばホールの方に力点をおいて、インフォメーションスペースはだんだん整備していくという考え方もある。
- ・ 仕様書に、どの部屋に何、何台とあるから絶対それを用意しなければならないというやり方をするとあまりいい結果にならないと思う。

(事務局)

- ・ 設計の段階で、幅を持たせて検討できるようにした方がよろしいか。

(平井委員)

- ・ 前から出ていたが、オープンする時点で完成するという考え方にあまりこだわらない方が良くもしい。
- ・ みんなが使ってみて、使い方が必要なものが変わってくる。

(池ノ上委員)

- ・ むしろそれも市民活動のひとつのコンテンツになる。

(平井委員)

- ・ 札幌市役所さんとしては、いろいろな人が見に来るだろうし、「何も入っていないけどまだなのか」と言われてしまう懸念があるかもしれないが、今回はみんなで作るというコンセプトでやっていますと説明してもらおうと良いのでは。

(小澤委員長)

- ・ 家具については、そのような考え方で表現を工夫して頂きたい。

(株式会社ディー・ジェー・ワールド)

- ・ 極力雰囲気は壊さない方針でいきたい。

(小澤委員長)

- ・ いまの話の流れで思ったが、サインのところで、10 ページだが、割と既製品のサインを含めて下の方に提案を頂いており、機能的にはこれでいいと思うが、その下に赤字で全て施設に見合った統一性のあるデザイン、素材、材質でコーディネートとある。これも、あまり既製品で並べていく仕様となるともったいないと思う。
- ・ 家具にテーマがあるとすると、サインのプレートにもちょっとしたテーマがあって、家具と一緒に考え、それが必要な館名のところや目立つ室名、主たる室名等の表示のところに家具と統一的な考え方が使われていてもいい。スタッフオンリーのところはシートや何かで切り文字のようなもので構わないと思う。そういった考え方も盛り込んで頂ければ、一緒にテーマをもって検討できると思う。
- ・ 意見交換のときにお話したが、サインのデザイナーのようなものが入ってくるといいなと思った。

(池ノ上委員)

- ・ この場では方向性とかコンセプトだけを話し合っ、それをデザイナーさんにしっかりとデザインとして表現して頂くというプロセスができるといい。

(小澤委員長)

- ・ そうしないとどうしてもカタログから選んでという作業になってしまう。

(池ノ上委員)

- ・ 現場につけるとときに既製品だとどうしても違和感は拭えない。

(小澤委員長)

- ・ もしここにいまの段階で書けるとすると、サイン、調度品についてはトータルのデザインコンセプトとコーディネートを行うというようなことを一言入れていくといいと思う。
- ・ ここにある写真は機能的にこういうものが必要だということを示すだけで、デザイン的なものは別に検討が必要ということ。

(池ノ上委員)

- ・ デザインの方向性やテイストはどのような感じか。
- ・ 例えば、ここにあるような校長室のような、木とか鉄とかの素材感とするのか。それとも、いわゆるモダン的な、現代的なデザイン。アクリルとかステッカーみたいなもので表現するのか。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・ 小学生中学生たちにコンペでもするか。

(小澤委員長)

- ・ 何か参加型のやり方もあるかもしれない。

(川上委員)

- ・ いま和室には表示は残ってなかったか。

(事務局)

- ・ 和室には、元々寮として使っていたときの部屋の番号札が設置されている。

(小澤委員長)

- ・ たぶんそのへんも整理が必要。
- ・ そういったテイストを活かして作る手と、残っているものは残っているもので展示的に置いておいて、新しいサインを別にしてしまうものもある。

(池ノ上委員)

- ・ どちらかだと思う。溶け込ませるのか、まったく新しいデザインにするのか。

(小澤委員長)

- ・ 防犯カメラ設置案内も必要なのか。

(事務局)

- ・ 防犯カメラを設置した場合には必要。
- ・ 個人情報保護の観点で、防犯カメラという不特定多数の方を映しているということを明示する必要がある。
- ・ ただ、このデザインでなければならないことはない。

(小澤委員長)

- ・ これもよくあるが、いろいろなサインに気を使って人を誘導するときに、防犯カメラ設置や禁煙というのがぶしつけにあると白けてしまうところもある。

(事務局)

- ・ そもそも防犯カメラを設置するかどうかと合わせての検討になる。
- ・ 禁煙も、あえて大きな立て看板みたいなものを設置することが必須ではないと考えている。
- ・ 時代背景がだいぶ違ってきている。
- ・ 歴史的建造物なので、ご遠慮くださいというのは何らかの形でお伝えしないといけないと思うが、必ずこういった形にしなければいけないとは限らないと考えている。

(池ノ上委員)

- ・ 建築の範疇なのかもしれないが、消防法上で非常口や誘導灯、消火栓の表示はどうか。

(北電総合設計株式会社)

- ・ 消防関係は決まっているので、固定で決まった形の中での選択しか認められないので、その範囲の中で設置することになる。

- ・サインとデザインを合わせてという形では、なかなか作れないというのが現状。
- (小澤委員長)
- ・今回具体的には誘導灯と消化器くらいですかね。消火栓はない。
- (北電総合設計)
- ・消化器はあるが、消火栓は置かない。もともとついてはいるが設置義務はない。
- (小澤委員長)
- ・消化器をきちんと置いておけば大丈夫。
 - ・法的なものはクリアしないといけないので、それはする。
 - ・あとは、禁煙や写真撮影 OK とか、これをどのくらいやるのか。
 - ・割と日本の建物はこういう表示が多すぎて、ちょっとうるさくなるというのがある。
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・今回の資料の趣旨として、このような表示は設置しないという形で実は丸をつけずにいた。
 - ・特に禁煙というものは、時代的にそれほどタバコを吸う人はおそらくいない。
 - ・ある程度アナウンスはしないといけないが、こういった大々的に設えや調和を壊す看板は特に必要ないと思っている。
 - ・現時点では、防犯カメラを設置することもない。
 - ・指定管理者の方で、カフェスペースなんかで必要であればそれはそれで考えて頂く。
 - ・この建物としては必要ないと思っている。
 - ・撮影 OK や NG というふうに掲示する必要はないかなと思っていた。
 - ・タブレットも含めて、自由にそこで写真を撮れるようにしてある。
- (小澤委員長)
- ・たぶん、もし伝えたいものがあれば、最初のサイネージのところメッセージなどで上手い具合に出してもいいかもしれない。
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・そうですね。利用規約、利用約款のところに組み込んでいくくらいかと思う。
- (小澤委員長)
- ・いろいろ考えはじめると、外国人の方のための「土足厳禁」とかいろいろなことが浮かんでくる。そうするときりがない。
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・下足箱がどうなるかというのが、また夏冬の問題に関わってくるので難しい。
- (小澤委員長)
- ・何かしら利用規約については、サイネージを活用するのがスマートかなと思う。
 - ・話題にしてほしいというリストの中に、外部サインとの調整という項目があるが、これは意図的にはどういうものか。
- (事務局)
- ・外部サインについては、工事がはじまる前にご議論頂いたが、確固たるこうしていこうという具体的なところまでの議論はなかったと認識している。
 - ・工事が実際にはじまるのはもう少しあとになるが、そのときに内部サインと外部サインと整合性をとった形にするとか、もしくは理由があってそれぞれ違ったやり方をするだとか、どちらにしても、一緒に考える場面が必要と考えている。
 - ・今後何らかの形で、そういう場を作る必要があると考えている。内部サインは内部サインである程度具体化した案みたいなものが固まって、外部サインは外部サインである程度固まった段階で、そういう擦り合わせをした方がいいのではないかと考えていた。
- (小澤委員長)
- ・すでに工事の中で入っているサインとして、外構には何があったか。
- (北電総合設計株式会社)
- ・まず三菱鉾業寮のサイン、それからカフェの設置のサイン、それから公園内のどこに何があるかというのを2カ所、それから北3条通りの通りに面してつけるサイン、あと駐車場と全部で5カ所。
- (小澤委員長)
- ・いわゆる外構に置く案内板という意味ですよ。

- ・ 建物の館名板はあるか。
(北電総合設計株式会社)
- ・ 1カ所ある。
(小澤委員長)
- ・ それはどこに取り付けているのか。
(北電総合設計株式会社)
- ・ それは元々の門のところに付いている。
(小澤委員長)
- ・ 建物の壁面につけているわけではないですね。
・ 整合性をはかるということだが工程的にはどういった形か。
(北電総合設計株式会社)
- ・ 工程としてはまだまだ先で、今年の秋くらいになる。
(小澤委員長)
- ・ そうすると時期的には内部のサインデザインが6月、7月くらいからはじまるので、それと並行して調整するということか。
(北電総合設計株式会社)
- ・ あまり遅くなってしまうと製作に入ってしまうので、基本的には昨年度までの委員会を実施していく中でデザイン、素材についてはご承頂いていたので、あとは実際のグラフィックと実際工事の中で版下を作って確認するということになる。
(小澤委員長)
- ・ そういった前提条件のもとでという議論になる。
・ お話をお聞きすると、フォント的なものやサインのイメージが中と外で全く違うものになっていると思うので、その考え方の摺り合わせが必要になる。
(池ノ上委員)
- ・ 中に入るイラストや情報みたいなものはもう決定したのでしょうか。
(北電総合設計株式会社)
- ・ 公園案内の表記内容についてはほぼ決定している。
・ 細かいところは、再度版下の中でということになっている。
(池ノ上委員)
- ・ もし先ほどの、デザイナーさんなのか、ワークショップ型にするのかはあるかもしれないが、今回ある程度トータルでデザインをすることができるということであれば、これも入れ込むかどうかののだが、豊平館はなかなかそこまでいかなかった部分でもあって、逆に言うと札幌市の文化財の活用のひとつのモデルケースになると思う。
・ ここで、ある程度きちんと組み立てた形で進むことができれば、豊平館も次にある程度更新していくときに、ここのテイストやあるいはここで作った考え方を適用することもできる。それ以外にも時計台など、いろいろなところで札幌市さんが展開していく文化財活用事例の中で、使えるようなモデルケースになると面白いと思う。せっかく活用の組み立ても含めて、結構時間をかけてして頂いているので、そこをどう市民と繋げていくかが課題である。
(小澤委員長)
- ・ 今のお話は以前にも一度話題になったことがあったと記憶している。
(事務局)
- ・ 外部サインのときかと思う。外部サインのときも、今回ここで方向性を定めた上で施設にも波及していくというのはどうかとご議論を頂いた経緯がある。
・ そのときは、さらにもう少し広く、全市的にどういうふうにサインを展開していくかみたいなのを考えた方がいいかもしれないが、そうなると文化財だけにとどまらなくなるという話があった。
・ なので、その考え方というと、いまおっしゃられた通り、ここできちっと定めたコンセプトと同様の展開を施設でもやっていこうという考え方については十分検討の余地がある。
(小澤委員長)
- ・ 私もそのへんどう考えていくのかと頭を悩ませていた。何か札幌市全体の観光資源やいろいろな歴史建造物含めて、それに必要な情報と、ある統一感をもったデザインがあって、そこ

に各建物の特色が入ってくる。各建物の内部サインまで全部ひとつのルールにするというのはおかしくなる。建物の内部、特徴から決まっていくサインと札幌市全体の方針でどういうふうに両方をリンクさせることができるか。

- ・何か上手くサインシステムみたいなものがデザインできると素晴らしいと思う。なかなか費用もかかる話ですが。

(平井委員)

- ・北大の中でいろいろと説明用のプレートがついているが、それは全部最初にやったのではなくて、確か緑地からスタートしたと思う。
- ・その後、建物や埋蔵文化財をやるときにベースの色を変えた経緯がある。
- ・形を統一しておいて、緑地は確かフォレストグリーン、建物は何か薄いクリームかベージュになっている。

(小澤委員長)

- ・そのあたりも、当初は取り決めが緩くあったようだが、あまりきっちり把握されていない、明文化されていない。そのあたりがきっちりシステムとして確立されていないのということが最近分かった。

(平井委員)

- ・最初は確か、それをやって他のものもできるだけ同じ形で統一していきましょうということで動いていたような気がする。
- ・完璧に決まっていなくても、そこそこに融通の利きそうなものを最初に1個決めてしまい、あとはそれに合わせる。
- ・市内で全部それができて、何となくベースの色が濃いグリーンだったり、濃いブルーだったり、見ればあそこに何かあるのかなと、一目で見て何かありそうだなと思って、そこに行ってみたくなるような形になると良い。
- ・最初に完璧にやろうとするとセクションも違うし、全部できなくなってしまう。
- ・そのあとだんだん形を少し変えとか、大きさも2パターン、3パターン広げていくとか、何とか最初に1回やればそれなりに出来てくるのではないか。

(池ノ上委員)

- ・考え方というか、志みたいなのをしっかり作ることができると、札幌市として文化財や公園を活用していくときに、何か繋がっていくと良い。そこは悩まないといけない部分も当然あるので、今後のアドバイザー会議で展開出来ると良い。

(平井委員)

- ・北大のキャンパスの中でもちゃんと継承されていない。札幌市全体でも、部署が全部違うのでなかなか難しいかもしれない。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・検討したことや判断の理由を、今回用意しようとしているデータベースの中に入れておけば、別の会議の中でも永山邸ではどういう理由で作ったのかということは見ることが出来る。
- ・今回は、永山邸に来なくても、外部からもデータにアクセスできるシステムを作ろうとしている。

(小澤委員長)

- ・そういう使い方もありますね。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・外部と内部のサインについては、こういった場で検討して合わせたという一文だけ入れておけば良いと思う。

(平井委員)

- ・それは大きいかもしれない。
- ・大抵、引き継ぎ書類はたくさんになる。ひっくり返してみるのは大変。データが残っていれば便利になる。

(小澤委員長)

- ・いまのお話で気付いたが、サイネージの中で今までの歴史的なものや一般情報、使用にあたってという話は入れてきている。

- ・ いままでどういうプロセスを経て、この改修工事ならびに新しい再生の旧永山武四郎邸及び三菱鉱業寮としてここに至ったのかをシンプルに説明されたページがあってもいいかもしれない。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・ 想定としては、それは札幌市からのお知らせという中に入れられれば良いと思う。
- ・ この創生東地区でやっている三菱鉱業寮がどういう過程で改修工事に至っているという情報まで含めて、札幌市からのお知らせの中に入ってくるといいかなと思っている。
- ・ データベースとしては、施設情報データベースの中に入ってくるかと思う。

(平井委員)

- ・ あまり気付かなかったが、それはすごく重要。
- ・ それがあれば、次の同じような案件が出てきたときに、そのときは結論が違ふかもしれないが、それにしてもこのときにはこういうふうに検討してやったと。
- ・ その後、それを参考にして、例えば時計台を次に改修するときには、それを踏襲するのもひとつ。
- ・ また、新しいいろいろな視点が出てきたので、変えましたと。まったく無関係にやっているのではなく、検討を経て変更しましたというのが残っていくと、それ自体が市の取組の資料として非常に重要になる。

(事務局)

- ・ 市としては、いまおっしゃって頂いたことはとても重要だと思っている。今回何でこういう取組をやったのか、市民の方、地域の方にどんどん参加して頂きたいということを、来て頂いた方に知って頂くことが非常に重要。
- ・ そこは見せ方を工夫して、まず知って頂けるように展開していきたいと考えていた。

(小澤委員長)

- ・ そこは是非取組んでほしい。

(平井委員)

- ・ あとの議題になると思うが、この活用を考える会とか、市民参加型でやった記録みたいなものもきちんと残していただくとよい。

(小澤委員長)

- ・ 先ほどのサインの話に戻るが、確かにすべての部局の合意をとって、固定されたシステムとなるとハードルが高くなる。
- ・ 例えば、できるとすると、このサインを決定するとき、札幌市の文化財や主たる観光施設のサインの状況をベーシックな内容で構わないのでリサーチして頂き、現況はこうであって、それを今回公園と文化財が絡むようなものに対して、どういう提案ができるかをクリアして頂き、それを今回やったということであればいいと思う。
- ・ それを発信するきっかけにして、時間をかけてほかの部署にも賛同を得られたら広がっていくと思う。
- ・ もしそういうふうにしていくことができれば、建築工事のサインの範囲内でもできる範囲でリンクさせてできるといいと思う。

(小澤委員長)

- ・ 限られた予算になると思うが、ややソフト開発のところに加重をかけた発注の仕方をして頂けるといい結果に結びつくのではないかと。
- ・ そのへんがちゃんと実現できて、発信できるともやもやとしたものが少し先に行ける気がする。
- ・ 次の議題に移りたいと思う。
- ・ 次第3管理運営の詳細事項について資料-4の説明を、事務局お願いします。

3. 管理運営の詳細事項について（資料-4）

(事務局)

- ・ 資料-4の管理運営の詳細についてご説明する。第5回、第6回と検討して頂いた内容を踏まえ、最終的にこのような形でどうかと確認も含めてご提案させて頂いている。

- ・まず開館時間については、午前9時～午後10時まで。
- ・休館日については、毎月第2水曜日、年末年始。
- ・使用料金については、1時間単位、午前・午後・夜間の帯単位、それと1日単位の5種類の時間帯の設定を設け、それぞれに対応した利用料を設定するとした。午前・午後・夜間の帯貸しの場合は9割掛け。1日単位の場合は、8割掛けと継続して長時間使って頂くとその分割安になる設定にしている。
- ・撮影料については、営利目的で撮影される場合。映画・テレビ・写真についてそれぞれ料金を設定している。これは札幌市の都市公園条例というものの中で設定されている料金に準じたものとなっている。ただしこれは、現段階ではあくまでも案であり、今後庁内の関係部局との調整を経て、最終的に決定することとなるので、お示しした料金については前後する可能性がある。
- ・次にソフト事業についてということで、これまでもこの建物でどういうことができるかいろいろとご意見を頂いたが、これについては次の議題である資料-5の活用を考える会の報告の中でご説明したい。
- ・最後にアドバイザー会議の設置についてということで、こちらは参考資料-1をご覧頂きたい。前回、委員会の中でアドバイザー会議の設置についてご了承頂いたので、それを踏まえ、札幌市の方で平成29年2月24日付けでアドバイザー会議を設置させて頂いた。こちらは来年度、29年4月1日から施行され、1年度間設置期間がある。こちらについては、1年度ごとに更新をしていくことを考えている。これまでもある通り、来年度何かアドバイスを頂いたり、場合によってはこのような形で会を開催させて頂く形を取らせて頂きたいので、何卒よろしくお願ひします。位置付けとしては、現在開いているこの検討委員会と同じような形を取るようになる。原則的には年1回開催、市民文化局の中に設置されている懇話会という意見交換をする場の位置付けになる。

(小澤委員長)

- ・資料-4とそれに付随して参考資料-1ということでご説明頂いた。
- ・管理運営の詳細、これは金額、開館日時の話。また、アドバイザー会議の設置ということで、メンバーの名前も出ているが、同じメンバーでということ。
- ・これについて何かご質問、ご意見等あるか。よろしいか。
- ・アドバイザー会議の設置要綱ということで、皆さんご意見ないようなので、来年度以降もよろしくお願ひします。

4. 地域住民説明会の開催結果（資料-5）

(事務局)

- ・2月25日10時～15時で開催された公園を楽しむ会の中で意見交換会を開催した。
- ・公園を楽しむ会自体は、非常に子どもたちも集まり、親もそこに一緒に来る形で、大盛況だった。
- ・1日で一般の方が89名、スタッフが18名で計107名が10時～15時の間に公園に集まりイベントを楽しんだ。
- ・その中で、建物に関する意見交換会は11時半からと13時からの1時間ずつ2回行った。1回目が17名、2回目が7名。特に1回目は、この意見交換会に来てくれた方もいたが、公園のイベントに子ども連れできた親御さんが複数名参加して頂いた。すでに公園のワークショップに何度も参加されている方にもご参加頂いた。2回目は、どちらかというと地域の方よりは市内の方が多く参加した。
- ・当日は、公園さんの方で火を用意して頂き、餅などを焼きながら非常に和やかな雰囲気の中で公園を楽しむ会が開催される中で、テントの中に展示・意見交換ブースということで、説明のパネルを掲示しいつでも見られるようにしつつ、その中に椅子を並べて、1時間ずつパネルの説明をさせて頂いたあとに意見交換会をする流れで開催した。
- ・この中で出された意見として、この建物をどのように活用していきたいですかということに対して、午前中は子育ての親御さんが多かったのもあり、おじいちゃん、おばあちゃんと離

- れて暮らしているのです、多世代で交流できる場になるといい。近所のお年寄りの方に自分たちの子どもも見て頂ける、遊んで頂ける場所になるといいというご意見をかなりたくさんいただいた。この多世代交流という交流事業は定期的に継続して取組んでいってほしいという意見もあった。それに付随して、子育て世代の方なので、この施設に子どもを連れてくると若干子どもを見てくれるというか、少し自分の手を離れるという場になればいいというご意見もあった。
- ・午後のご意見が多かったのは、2つの時代の歴史的な建物があるので、そういった昔を感じる部分や、貸室が和室という特徴を活かし、日本らしさを五感で感じるような活用の仕方を期待するというご意見が出された。特に外国人の方もそういうものを活かしたソフト事業があると興味を持ってもらえるのではというご意見。具体的には、餅つきイベントとか甘酒が飲める、和のおせち料理なんかの料理教室だったら行きたい、書道や華道という和に関するイベントもこの場所に合うのではないかとご意見も頂いた。
 - ・4ページ目は、施設についていろいろご意見を頂いたところ。貸室については、なるべく利用するときには安価だと助かるというご意見。あと、音楽されている方が音の出るイベントもできるのかという質問。それについては、音を出して大丈夫かというのは、カフェや施設運営との調整になると思うが、静かな公園の中で音楽イベントをやるのは合うのではというご意見もあった。
 - ・カフェについては、カフェスペースは使い方としていいアイデアというご意見を頂いた。具体的には、身体にいい食事や地産地消みたいな食事が提供されたらいい。歴史的なものもありつつも、もう少しスタイリッシュで若い世代にも入りやすいものだったらいい。
 - ・靴を脱いで入る点は、少し他とは違った特徴が出てくるのでいいと思いつつ、若干気軽に入りづらい点もあるので、そのあたり工夫があればというご意見。
 - ・カフェの営業時間については、先ほど館としては9時～22時ということで、その中でということなのだが、参加者の方ではモーニングがあればいいと。9時よりも早い時間帯に利用できるともっと利用する人がいるのではないかとご意見もあった。テラスについては、テラス席に飲食、自分たちの持ってきたお弁当などを持ち込みできるような形になればいいというご意見があった。
 - ・ここは公園なので、やはり子どもを遊ばせるために来て、お弁当を持ってくる親子連れも多いということで、せっかく机、テーブルというのがあれば、そこも使えるようになると助かるのご意見で、この辺りも今後の調整事項になるかなと思う。ペットもテラス席に連れて行って利用することが可能なか気にしている方もいた。
 - ・備品については、プロジェクター、スクリーンがあればいいとか、囲炉裏があるといいというご意見があった。
 - ・その他、公園に関するご意見。周辺施設、ファクトリーと連携したらいいのでは。夜間についても、いまでも少し暗いというイメージを持っている方がいて、それに対してもう少し賑わいを創出したらどうかというご意見もあった。
 - ・ソフト事業については、9ページと10ページの黄色部分で、この活用イメージは意見交換会で使ったものになるが、これまでの議論や昨年度の検討を踏まえて活用イメージを整理したもの。
 - ・1つ目としては、人材を育てる系のソフト事業を展開してほしい。すでにこういう取組をやっているところではあるが、ガイドツアー、まち歩きみたいなことやボランティアガイドさんを育成して、施設を紹介してもらおう。
 - ・もうひとつが、資源を繋ぐということで、地域の歴史や産業遺産、観光資源などを掘り起こしながら連携させていくイメージ。こちらも地域資源を使って、いろいろなイベントが最近行われていると前回紹介したが、そういったことを継続していく。あと、地域の資源を探して、みんなでマップにしてみる。そういう情報を集めて、先ほどのデータベースに蓄積していく取組。
 - ・アートイベントなのか、その他にもいろいろあるかと思うが、歴史や地域資源を上手く活用しながら、新たなものと結びつけて、新たな価値を創造したり、新たなまちづくりに繋げていく取組をやっていく。

- ・ 次の 10 ページ目は、地域の人々の居場所を作るということで、地域の人たちがリピーターになるようないろいろなプログラム、イベント等。展示会や、ものづくり教室、和に関わるような勉強会などを整理している。
- ・ 先ほど、多世代交流がしたい、昔遊びをお年寄りが教えてくれると良いといった地域の声を踏まえて、もう少しこのあたりを強調して再整理したい。また、先ほど委員会の中で、内部の家具づくりみたいなことも、活動のコンテンツになるということもあったので、そのあたりももう少し盛り込んだ形で最終的に整理したい。
- ・ 最後の収益を生み出すところは、新しい価値づくりを、もう少し攻めの姿勢というか、新しいデザインや、せっかくカフェができるのでそこの連携の中で、歴史をもっと発信していくとか、収益につながるような取組にしていく、といったことにも是非取組んでほしいということ指定管理者さんにはお示しできればと思う。

(小澤委員長)

- ・ ただいま資料-5 について、ご説明頂いた。何かご質問・コメント等あるか。
- ・ 質問だが、6 ページ以降の事業概要説明パネルというのは指定管理者さんに向けたパネルじゃないですね。

(事務局)

- ・ そう。意見交換会のときに皆さんにお示しするために作成したもの。
- ・ これを元に、皆さんに情報提供させて頂いて、それで意見交換させて頂きたいという添付資料。

(小澤委員長)

- ・ このテントの下の並んでいるこのパネルですね。

(事務局)

- ・ 全体的に、参加者の方も、雰囲気の良い中で開催したのもあると思うが、興味や期待を持って頂いていると感じた。

(小澤委員長)

- ・ たぶん、何かカフェができるとお考えの方にとっては、活用イメージを示されて、こういうこともするのかという驚きもあるのではと思うが、そこの反応はどうか。そこは皆さんもストンと最初から落ちているのか。

(事務局)

- ・ 私はある程度ストンと落ちていると思って聞いていた。
- ・ 特に、最後の 10 ページ目のみんなが集まれて交流できるような場所になるといいなというのも、このイメージを見てのご発言だった。
- ・ 貸室が和室だったので、和室を使ったものを主に写真として掲載していたので、日本風とかそういうあたりのご意見頂いているのかと思う。

(小澤委員長)

- ・ あくまでもイメージなので、こういったイメージで提示させて頂き、一緒に考えていきましようという雰囲気ですかね。
- ・ この説明会は今後もあるのか。

(事務局)

- ・ こういう場をこれからも継続してやっていきたいと考えている。
- ・ どういう形になるか詳細は決まっていないが、市民の方、地域の方と一緒に取組んでいくということが、この施設にとって非常に重要だと考えている。
- ・ どんどん積極的に情報の共有やコミュニケーションを図りながら、みんなと共に一緒に継続できるような下地を作っていきたい。

(小澤委員長)

- ・ 来年度以降も予定ができていくということですね。
- ・ 最後にその他ということで次第にあるが、事務局から何かあるか。

5. その他

(事務局)

- ・公園の方も大規模な工事を予定しており、設計が完了している。
- ・このことについて、公園を所轄している中央土木部の吉野から簡単に説明させて頂く。

(吉野)

- ・工事期間は、まだ入札等の流れがあるのではっきりと決まっていないが、平成29年7月頃から現場の工事は始まる。
- ・約半年間で工事終える予定。
- ・実際の施行は建設局のみどりの推進部という部署で屋外工事を専門にやっている部署が行っていく。
- ・こういった比較的規模の大きい公園なので、全面閉鎖というのはなかなかできない。
- ・部分的に閉鎖というか規制をしながら、一般の利用の方に影響のないように行っていく。
- ・平面的には、図面が小さく見にくいと思うが、基本的なところとしては住民の要望通り、ほぼイメージとしては変わらない前提。
- ・改修箇所としては、ひとつはバリアフリー。サッポロファクトリーからの園路の動線を今回永山邸にずっと目が通るように一本道を通す。あと、老朽化した遊水路の改修。
- ・近隣に非常に子育て世代が増えているということで、図面右下の方になるが、少し遊具と遊水路がセットになったような遊具広場のスペースができる。
- ・樹木については、一部工事で伐採するものが出てくるが、基本的にいっぺんに伐採はしないで、段階的に樹木の成長を見ながら、少しずつ手をかけていきながら、樹林を健全に保っていければと考えている。
- ・あとひとつ、これまで話に出ていなかったが、雨水がいっぺんに下水に流れていかないように、下水道河川局で、公園の地下の部分なのだが、この図面上右と左下の水色の網掛けの四角い部分がある。
- ・公園の施設が比較的地上にない部分に、大体地下2~3mくらいに、立法形の薄い貯留施設といった層を地下に入れて、洪水などの災害を防ぐといったような取組を行う予定。
- ・永山邸の庭の中は園路をちょっとやりかえるだけで、木についても触らないようにする。
- ・外周の庭を囲っている柵のラインが少し建物際、内側に入ってくるような工事が一部行われるが、ほぼ庭としてはこれまでと同様の使われ方が可能だと思う。

(小澤委員長)

- ・ひとついままでの話で私から確認なのだが、誘導サイン、案内サインとあって、別途施工とあるが、これは建築工事ということか。
- ・そうすると、永山邸の敷地内にある誘導サイン、名称サインは何個になるのか。

(吉野)

- ・全部で5カ所。
- ・駐車場の誘導サインと永山邸に誘導する名称サイン、それから北3条通り、2条通りとファクトリー側の案内サインの5カ所が建築工事で発注する。

(小澤委員長)

- ・そうすると、先ほどのサインの全体のコンセプトの中で考えることができるものがこれということですね。

(平井委員)

- ・バリアフリーエントランスだが、イメージとしてバリアフリーエントランスは、当然通年使えるに違いないと信じ込んでおり、こちらも雪が落ちることになると、ここだけはもう少しきっちり議論を詰めて頂く必要がある。
- ・やはり札幌市さんの建物なので、2階までバリアフリーというのは無理だとしても、1階だけは入れるということであれば受け入れられると思うが、冬期は健常者しか入れないということになると、市としては辛いのではないかと思う。
- ・そうはいつでも、もうすでに設計も固まっているわけだし、急にどうするとは言いつらいと思う。

- ・ 少なくとも、議論だけはできるだけきっちり詰めて、難しいなら難しい、なぜ難しいかという理由を、どこから質問がきても答えられるように、そこだけはきっちりやって頂かなければいけないのではないかと。
- ・ できれば、何か雪よけカバー的なものを設置して、車いすでも冬も入れた方が本当はいいと思う。ただ、完璧なことはできないので、ダメならダメではない。
- ・ 私もここ2~3年いろいろな歴史的建造物の調査をしていて、一般論としてこういうことはかなりある。
- ・ 基本的に洋風デザインのものをもってきているが、北海道や東北みたいにこれだけ多雪のところは世界的にも少ない。
- ・ 例えば、アメリカの東海岸の方からもってきたとすると、寒いのは北海道と同じかそれ以上寒くなる場所もあると思うが、ここまでの雪はたぶん想定していない設計で、そこを変更しないままに北海道に持ち込んでしまった。
- ・ そうすると、これからこのような建物をどうやって保全していくかというのは、やはり北海道の歴史的建造物として考えなければいけない。
- ・ 少しもいじらずに、100%そのまま守れとっていると、じゃあ実際使うときにどうだということになる。そこまで考えないで、形通りそのまま導入してしまった過去がある。
- ・ いまの北海道の洋風建築というのは、少なくとも玄関には雪が落ちないようにしているわけだから、それを何十年、何百年という時間の経過の中で、切妻でも寄棟でも北海道に合ったそれなりのやり方が、今はできている。
- ・ もちろん、その時代の北海道に合わない屋根の形を残しておくことは、これは当然あって良い。それも歴史的建造物を見る上で、非常に重要なこと。
- ・ 予算的にはできないかもしれないが、そういうものを守りながら、保全しながら、けどいま使いやすい形状にするために雪をどこかに流すためのカバーを、ガラスなり、強化させた透明の樹脂板なりで造るような形で、できるだけ外観の意匠を壊さないようにしながら使える形にしていくことを本当は考えた方がいい。
- ・ ただ、なかなかそういう議論までいっていないので、とにかくできるだけ守りましょうということで設計してしまう。
- ・ いざ、いまの時代になって、バリアフリーという考え方が一般的になってくると、特に公的な所有者の建物ではやはり両方考えざるを得ない。どちらかを選択しますというわけにはいかない。
- ・ 急にできないにしても、将来また何年後かに改めて、改修ではなくて外付け的にいまのものを傷付けない形で可能かどうかということを含めて、継続的に検討して頂ければと思う。

(川上委員)

- ・ 今回これが完全に解決できるかどうかは別にして、そういう問題点があるという検討経過みたいなものをちゃんと残して、それを次の例えば時計台とか、いろいろな施設に反映していくということが大事。

(平井委員)

- ・ 決して知らぬ振りをしているわけではないというのは大事。
- ・ おそらくいろいろな方法があると思う。

(小澤委員長)

- ・ これははっきりしたことを申し上げられないが、例えば高分子系の先生で滑りに関する研究をされている方がいらっしゃる、鉄板屋根の表面の加工や塗装で滑りの係数を上げると雪が落ちやすいという技術もどんどん開発されてきている。
- ・ 例えば、そういった歴史的な屋根とは材料が変わるかもしれないが、必要なところはその屋根をふき替えて、そういう材料にして、落ちやすくして、落ちた雪をちゃんと除雪するという方法もあるだろう。
- ・ そういった最新技術も使いながら方策は考えられると思うので、そこは重要課題として検討を継続するべき。この部署だからこそできることだと思うので、是非継続していきたい。
- ・ 最後に、議題としては以上だが、今後アドバイザー会議という形で議論引き継がれて、このメンバーでいくことになるが、委員会としては本日をもって最後ということで、最後に皆さまの全体を通してお気付きのご意見をお伺いしたい。

(池ノ上委員)

- ・今回、サインと展示の計画を含めて、まちづくりの拠点というところと創造性みたいな3つの柱のうちの2つをどう実現するかというところについていろいろ検討して頂いた。
- ・今回の資料の8ページ目に、建物がありながらバーチャルな世界でデータベースを作る方向で検討して頂けたところがありがたい。これが、三菱鉦業寮を軸にして、クラウドサーバーを使ってデータベースを作ったり、あるいはデータベースを使っているいろいろな人たちが繋がるとか、新しい繋がりが作れる可能性のある仕組みが作れると思う。
- ・ただ、これを今後どう指定管理者を含めて活用していけるかということところにも、かなり能力や経験、スキルも必要になってくると思うので、そのあたりも含めて今後の運営部分でどんな仕組みを作っているか。これが先ほどのサインだけではないが、永山モデルみたいな形になって、今後のいろいろな札幌市の文化財の活用のひとつの形になっていくといいかなと期待を込めて思っている。
- ・次年度以降もいろいろな形でお手伝いさせて頂ければありがたい。

(川上委員)

- ・データベースを非常に期待している。今回、3つデータベースあるが、右側の市民データベース。これは市民の方からいろいろな情報をあげて頂くということが非常に大事。
- ・いま文化財課の方では、仮称だが歴史的資産保存活用方針を来年度、再来年度の2年間をかけて作ろうと準備を進めている。そもそものきっかけは、指定されるような文化財ではなくても地域にいっぱいいろいろな歴史的資産が埋もれている。これを発掘して、ちゃんと調査をして市民と一緒に守っていこうという方向性なりを活用方針という形でまとめていきたいと思っている。その中で、市民の関わり合いとか、行政主導ではなく、いろいろなまちを歩いて、こんな古い建物があつたと写真を撮って、ここのデータベースにあげて頂けるなど、普段の市民レベルの活動の積み重ねみたいなものがここで上手く行政に繋がっていくことが可能性としてあるのではないかと期待している。
- ・これを是非、まずは永山で上手く運用して頂き、それを大きくステップアップして頂ければ非常にありがたい。

(小澤委員長)

- ・この委員会は、非常に丁寧に事務局、あるいは協力して頂いた皆さまの対応のおかげで、とても丁寧な議論を積み重ねてきたと思っている。非常に大事なご意見も頂いているので、あとはこれを永山邸、旧三菱鉦業寮の改修、再活用の具体的なプロジェクトと絡めて、できるだけ分かりやすく発信して共感を得ていけるようにするのが大事だと思う。おそらく行政的にも、この部局だけでなく、最後、川上委員おっしゃったお話も景観の方とかなりリンクしてくると思う。そういった意味でも、市民側から分かりやすくという目線で、いかにそれができるのかという部分が勝負所になってくると思う。来年度はいろいろなものが目に見えてくるフェーズになるので、是非アドバイザー会議という形で私もお協力させて頂きたいと思っている。
- ・実り多きプロジェクトになるように、また引き続き皆さまによりしくお願いしたい。

5. 閉会

(事務局)

- ・長時間に渡りご検討頂き、ありがとうございます。本日予定をしていた議事はこれで終了した。本日をもち、旧永山武四郎邸及び旧三菱鉦業寮設計活用等検討委員会が終了となるので、最後に文化部長の川上より挨拶申し上げる。

(川上委員)

- ・検討委員会は本日をもって一旦終了する。
- ・皆さんすでに十分ご存知だと思うが、平成25年の耐震改修調査からスタートし、実に足掛け4年目を迎えて、本当に丁寧な議論を重ねながらここまで至っている。この間、先生の皆さまから改修工事の内容や展示の関係、その前には活用の在り方など本当にいろいろな部分

で、それぞれのお立場から参考となるご意見を頂いたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

- ・また、オブザーバーとして参加して頂いた設計、運営、あるいは展示の関係者の皆さまにこの場を借りてお礼申し上げます。
- ・永山邸の事業だが、札幌市にとっては歴史的な建造物をきちんと維持・補修しながら、新しい活用の在り方を考えていくことははじめての試みだと考えている。検討委員会は今日で終了だが、平成30年オープンに向けてあと残すところ1年。まだまだ工事も続くし、今日の検討の結果も踏まえて具体的な展示、サインの具体的なことも検討をはじめ。そういった中では非常に重要な1年だと思っている。アドバイザー会議という形で、来年度も引き続き先生の皆さまから貴重な意見をしっかり頂きたいと思っている。我々も失敗は許されないという気持ちで力を合わせてやっていきたい。
- ・本当に3年間ありがとうございました。

(事務局)

- ・それでは、これをもちまして、第7回旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会を閉会する。